

『摂南大学教育学研究』第14号発刊にあたって

『摂南大学教育学研究』編集委員会

委員長 吉田 佐治子

この度、『摂南大学教育学研究』(Bulletin of Educational Research of Setsunan University)第14号が完成いたしましたので、発刊いたします。

本誌は、摂南大学教職支援センターの教員及び教職課程を履修した卒業生を中心に、教育の理論および実践的交流誌として発刊するもので、教職支援センターの研究事業として14年の歳月を刻むこととなります。

2017年は、新しい教員養成のあり方が示された年でした。2015年12月の中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」を受けて作成された「教職課程コアカリキュラム」が、11月に公開されたのです。

教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会は「教職課程コアカリキュラム」の中で、その作成目的を「教職課程コアカリキュラムは、教育職員免許法及び同施行規則に基づき全国すべての大学の教職課程で共通的に修得すべき資質能力を示すものである」とし、「教職課程全体の質保証を目指す」と述べています。さらに、「地域や学校現場のニーズに対応した教育内容や、大学の自主性や独自性を発揮した教育内容を修得させることが当然」ともしています。

現在、本学でもこの教職課程コアカリキュラムに沿うよう、教職課程のカリキュラムを検討しているところです。私たちにとっても、教職を志望する学生に、何をどのように学んでほしいのか、何を伝えたいのか、改めて考え、確認する機会となっています。

本学の発展と共に教職課程の教育内容がますます充実していくための一助となるために、この『摂南大学教育学研究』が役立つことを願っています。

2018年1月31日